

概 説

児童館・学童保育所への期待・社会的要請は、**地域の子どもと家庭を支える“安心の拠点”**であることに集約され、子どもが安全に過ごし、遊びや体験を通して成長できる場であると同時に、保護者が気軽に相談できる子育て支援の窓口としての役割も求められています。さらに地域の人々をつなぎ、子どもを中心にしたコミュニティを育む公共の基盤として期待されています。

上記の情勢認識のもと、令和6年度に改訂した「京都市児童館活動指針」の学習会を全7ブロックで開催しました。子どもの意見表明や子どもの参画、職員に求められる役割、また施設の安全対策をテーマに活発な議論が行われました。

活発な事業を展開する上で職員の資質の向上と定着が不可欠ですが、令和7年度も行政研修、派遣研修、支援ステーション研修等、年間で40回以上の研修を企画・運営しました。また、新規採用職員の定着を図るため、法人の垣根を越えて連盟として「第2回 合同入職式」を都ホテル京都八条で開催しました。松井京都市長からのビデオメッセージやグループワーク、ビュッフェスタイルの昼食を共にしながら活発な交流を行い、同期意識を養う中で悩みや不安を共有し励ましあえる仲間づくりに結びました。また児童館人材マッチングセンターの積極的展開を図るため、SNSの活用を検討しています。

コロナ禍の影響から長らく中止としていた「京都やんちゃフェスタ」を6年ぶりに梅小路公園芝生広場で10月に開催しました。今回の復活開催は各ブロックで毎年開催している「ブロックやんちゃフェスタ」と、連盟の子育て支援イベント「親子でニコニコ笑顔いっぱい」を隔年開催とするなど実施に向けた工夫を行う中で開催し、当日は約25,000名の来場者を迎え、児童館・学童保育所の魅力を市民に向けてアピールする機会となりました。

併せて、京都府、京都市と共催して「京都版ミニ・ミュンヘン」を梅小路公園七条広場で「京都やんちゃフェスタ」と同日開催しました。「子どもが作る子どもの街」をテーマに、6月から各ブロックで子どもスタッフを募集し、ワークショップを行う中で出展内容を検討し、子どもが主体性を発揮し開催しました。また、街の仕組みとして実際に京都市会議場で「街の名前」「通貨の名前」を検討しました。「子ども市長選挙」を行い、子ども市長を選出しました。当日は西脇京都府知事、松井京都市長を迎え、6,000名の来場者を迎え大きく成功しました。この2つの大きなイベントの成功は、京都市の児童館・学童保育所の持つ、子どもの主体性を引き出すポテンシャルの高さを示す結果となりました。各館所のご協力にあらためて感謝いたします。

京都市児童館学童連盟は、全ての児童が安心して成長できる地域社会の実現に向け、引き続き会員の皆様と共に専門性の向上と事業の充実に努めてまいります。また、各施設が子どもと家庭を支える公共的役割を的確に果たせるよう、京都市をはじめとした関係機関との連携を一層強化します。今後も、市民から信頼される児童館・学童保育所の運営を支援し、その中核としての責務を果たします。

I 健全育成・子育て支援事業

1 各委員会活動

(1)事業推進委員会

1 令和7年度 事業目標

「京都市児童館活動指針」（以下、「活動指針」という）の浸透を図り、児童館・学童保育所が「活動指針」に基づいた活動を推進することを支援し、児童館・学童クラブ事業の全市的發展・推進を図ることを目的としています。

国においては、令和5年にこども家庭庁の創設、こども基本法の施行がされ、その理念を推進するためのこども大綱が閣議決定されました。また、こども大綱と同日にこどもの居場所づくりに関する指針が閣議決定され、児童館・学童クラブにおいては、学童期のこどもの居場所の機能としての役割が期待されています。令和6年にはこれらのことを踏まえ、「児童館ガイドライン」「放課後児童クラブ運営指針」といった国における児童館・学童クラブのガイドラインについて改正が行われました。令和7年度は、全ブロックで学習会を行うことで新たな活動指針の内容について児童館・学童保育所へ浸透を図り、全市的な事業の推進と発展に寄与することを目指しました。

2 令和7年度 活動報告

令和5年4月に施行された「こども基本法」、また、同年に閣議決定された「こどもの居場所づくりに関する指針」の内容を踏まえ、令和6年12月に児童館ガイドラインの改正、また、令和7年1月に放課後児童クラブ運営指針の改正が行われました。

京都市においては、令和7年4月を始期とする京都市子ども・若者総合計画「京都市はぐくみプラン2025-2029」が策定され、その内容を踏まえ昨年度「京都市児童館指針」の改訂を行い、児童館・学童保育所に求められる今日的な役割と課題を明らかにしました。

令和7年度は、改訂した活動指針の全市的な浸透を図るため「活動指針説明会」を開催し、指針に盛り込んだ児童館・学童保育所をめぐる情勢の変化や、実践活動を推進していく上での留意点などの改訂点について説明しました。また、より丁寧で分かりやすく浸透を図るため、今次改訂における特徴についての解説を中心とした「活動指針学習会」を多くの職員の参加の中、ブロックごとに開催しました。開催にあたっては3つのテーマ「子どもの意見表明・子どもの参画」、「児童館職員に求められている役割」、「施設の安全対策」を設定し開催しました。

さらに、ブロックごとの学習会の議論を報告書にまとめ全館所に送付し、共有を図りました。

令和7年度 活動実績

月	活動内容／指針に関わる動き	委員会／会議
5月	年間の活動計画の決定 各ブロックからの意見集約	第1回正副委員長会議（5／2） 第1回委員会（5／22）
7月	「指針学習会」の内容の検討 実施概要の決定 ブロックごとの開催日程の調整	第2回委員会（7／3）
8月	ブロックごとに開催内容の打合せ	第7ブロック（8／26） 第6ブロック（8／29）
9月	ブロックごとに開催内容の打合せ 「活動指針説明会」の開催	第3ブロック（9／1） 第5ブロック（9／4） 第4ブロック（9／8） 第2ブロック（9／16） 活動指針説明会（9／25） 第1ブロック（9／30）
10月	「活動指針学習会」準備状況の確認・共有	第3回委員会（10／7）
11月	「活動指針学習会」の開催	第2ブロック（11／7） 第3ブロック（11／10） 第4ブロック（11／17） 第5ブロック（11／19） 第6ブロック（11／25） 第1ブロック（11／26） 第7ブロック（11／27）
1月	「活動指針学習会」の総括と報告書作成	第2回正副委員長会議（1／19） 第4回委員会（1／26）
3月	「活動指針学習会報告書」の発行	3月下旬

(2) 処遇・施設委員会

1 令和7年度 事業目標

令和7年度は京都市への職員処遇と施設に関わる要望を検討します。引き続き連盟運営館で実施している4週8休の勤務体制について、今年度も実施を継続し、利用者の声等も集約し、試行

を通じて得られた知見の分析を行い、成果と課題を共有しながら各施設の人材の確保と定着に資する勤務体制のあり方を検討します。

2 令和7年度 活動報告

今年度の委員会活動は昨年度実施した「職員充足状況アンケート」を基に集計データを共有することをはじめ、職員処遇の更なる改善を目指し、各ブロックで要望を集約し要望項目にまとめました。要望項目として、「京都市児童館事業委託料（人件費相当額）算定基準」の水準の底上げと級位制の導入を求めることなど昨年度からの継続的な要望項目として伝え続けることを確認しました。また、4週8休制が徐々に広がりを見せる中で、実施館所がどのような成果と課題に直面しているのかを調査し、さらに、調査結果を基に実施館所による「経験交流会」の開催を方針化しましたが、今年度内での開催には至りませんでした。4週8休制の調査結果の分析と経験交流会の開催は令和8年度に行います。

3 令和7年度 活動実績

5月15日（木） 正副委員長会議

5月27日（火） 第1回処遇施設委員会

7月14日（月） 第2回処遇施設委員会

11月10日（月）～21日（土）「4週8休制実施アンケート」実施

(3) 予算対策特別委員会

1 令和7年度 事業目標

予算対策特別委員会は、各専門委員会の来年度予算に係る意見等を集約した上で要望書を策定し、京都市に提出する中でより一層の予算の拡充を目指します。

2 令和7年度 活動報告

7月 1日（火）	第1回 予算対策委員会
7月16日（水）	第2回 予算対策委員会
9月19日（金）	理事会において要望書（案）確定
10月 2日（木）	連盟三役 要望書提出（速報発出）
2月13日（金）	京都市、「要望書」に対する回答（速報発出）
2月25日（水）	第3回 予算対策委員会

令和8年度の関連予算は、前年度と比べ9億5千4百万円の増となった。基本給相当額の平均4.9%引上げと期末勤勉手当相当額0.05月分の増額のほか、指定休の拡大や休暇取得の促進につながりやすいよう休暇代替臨時職員の雇用に要する費用相当額における単価設定の大幅見直し、経験手当における新区分の創設、施設外クラス加算の新設及び調整規定の見直し、子どもの性被害防止のための設備・備品購入補助、Wi-Fi環境整備のための補助など、可能な限りの予算計

上がなされており、京都市の並々ならぬ御努力と英断に敬意と感謝を表すものである。しかし、要望書に記載した各種の要望で実現していない項目も多く、委員会としては引き続き要望活動を行っていきたい。

(4) 研修委員会「2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項を参照。

(5) 統合育成委員会「3 障害のある児童の統合育成事業」の項を参照。

(6) 広報委員会「4 広報活動」の項を参照。

(7) やんちゃフェスタ 2025 実行委員会「5 京都やんちゃフェスタ 2025 の開催」の項を参照。

2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修

1 令和7年度 事業目標

「指針」に基づき、児童館・学童保育所職員の資質向上を目的に、京都市から受託する児童館・学童保育所職員研修事業を実施します。

中堅職員向けの研修では、児童館を取り巻く現状と課題から、児童館・学童クラブ事業を俯瞰的に捉えられるよう研修内容を工夫します。また、施設長向けの研修では、制度、施策の動向やコンプライアンス、施設マネジメントなどの研修を通し、施設管理者として必要な情報の提供と倫理意識の高い組織づくりを目指す内容を取り入れます。

2 令和7年度 活動報告

令和7年度 京都市児童館・学童保育所職員研修会について、研修体系にのっとった科目を実施しました。研修形態は研修効果を考慮して集合研修を実施しました。

各研修会は毎回概ね100名前後の参加者を迎えており、各施設の職員育成への関心の高さがうかがえます。また、ブロック企画研修（「児童館・学童クラブ活動研究Ⅰ」）については、一昨年度から、従来どおり年2回の実施に戻しました。そのことにより、地域性をいかした内容や、児童館・学童クラブ活動の交流等、多数の職員が学ぶ機会となりました。

堅職員派遣研修については、他法人、他ブロックの児童館で約2週間の研修を行うことから、通常の研修会では得られないような貴重な経験を得る研修となっています。受け入れる児童館にとっても、活動を展開する上で他館の職員から違う視点を得る刺激となっており、委員会では中堅派遣研修の持つ、このような研修効果の高さを確認し、研修委員が各ブロックで積極的な参加を呼びかけました。

一般財団法人 児童健全育成推進財団主催の研修への京都市からの研修派遣については、現地での対面形式のほか、Zoomを用いオンライン形式で実施されました。オンライン研修受講環境が各施設で整ってきたこともあり、安心して派遣研修に参加することができました。

- (1) 委員会（年間5回：4月、6月、9月、11月、2月）
- ・行政研修、派遣研修の内容や予定の確認と、実施した研修の報告
 - ・全7ブロックで実施するブロック企画研修の立案、企画、事後報告
- (2) 研修会
- ① 行政研修
 - ② (一財) 児童健全育成推進財団への研修

① 行政研修 ※ () は受講者数のうち、外部受講者の人数を示す

基礎（初任者）研修会

参加者数：「健全育成」79名（12）

：「児童館の機能と運営」60名（2）

：「京都市の児童館・学童クラブ事業」74名（8）

：「児童館の活動内容」59名（1）

日 時：5月8日（木）・9日（金）

講 師：「健全育成」 國重晴彦（京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援統括監）

「児童館の機能と運営」 高橋睦巳 氏（京都市嵯峨広沢児童館 館長）

「京都市の児童館・学童クラブ事業」 白本業晶 氏（ももやま児童館館長）

「児童館の活動内容」 勝守昭子 氏（京都市桂徳児童館 館長）

救急法「普通救命講習Ⅲ」

参加者数：110名（8）

日 時：5月12日（月） 左京消防署/醍醐消防分署

5月13日（火） 上京消防署/下京消防署/右京消防署

5月15日（木） 西京消防署/伏見消防署

子どもの安全対策

参加者数：134名（15）

日 時：5月26日（月）

講 師：西田鉄平 氏（京都市教育委員会体育健康教育室 主席指導主事）

テ ー マ：児童館・学童保育所における安全指導と安全管理について

中堅職員派遣研修

派遣者数：19名

事前説明会 6月3日（火）

事前研修会（オリエンテーション）7月15日（火）

派遣研修期間 9月4日（木）～19日（金）

事後研修会（研修者報告会）10月17日（金）

事後報告会（施設長報告会）10月29日（水）

実技研修

第1ブロック 身体表現活動

参加者数：34名

日 時：6月9日（月）

講 師：鈴木英理子 氏（おやこダンスカンパニー「チチカカコ」）

第2ブロック 野外活動

参加者数：36名

日 時：6月4日（水）

講 師：砂山真一 氏（ポジティブアースネイチャーズスクール PENS）

第3ブロック 児童文化財活用法

参加者数：29名

日 時：6月12日（木）

講 師：高橋司 氏（佛教大学 名誉教授）

第4ブロック ゲーム・運動あそび

参加者数：38名

日 時：6月18日（水）

講 師：瀬川正人 氏（エール株式会社）

第5ブロック 科学遊び

参加者数：30名

日 時：6月5日（木）

講 師：倉橋克彦 氏（つくるまなぶ京都町屋科学館）

第6ブロック 音楽表現活動

参加者数：33名

日 時：6月10日（火）

講 師：馬賣真人 氏（あそびうたユニット「かば☆うま」）

第7ブロック 造形表現活動

参加者数：33名

日 時：6月24日（火）

講 師：梶千春 氏（愛知県児童総合センター 児童厚生1級指導員）

配慮を必要とする子どもの支援

参加者数：104名（9）

日 時：7月1日（火）

講 師：伊丹昌一氏（梅花女子大学 心理学部 教授）

テ ー マ：発達に課題のある子どもの理解と支援

児童文化財活用法2

参加者数：53名

日 時：7月17日（木）

講 師：磯みちちえこ 氏（むむのこキカク）

テ ー マ：影絵の魅力 ～影絵をみんなで楽しむための手法・技法を学ぶ～

ブロック企画研修①

第1ブロック

参加者数：27名

日時：9月24日（水）

テーマ：子どもの声を形に

講師：研修委員が担当

第2ブロック

参加者数：18名

日時：9月24日（水）

テーマ：自分自身と向き合い多様な価値観の理解につなげる Life is Learning

講師：研修委員が担当

第3ブロック

参加者数：28名

日時：11月6日（木）

テーマ：ボール遊び

講師：研修委員が担当

第4ブロック

参加者数：19名

日時：7月10日（木）

テーマ：わりばし鉄砲が進化したゴム銃を作ろう

講師：谷口昭雄 氏（はなぶさ児童館 館長）

第5ブロック

参加者数：19名

日時：11月13日（木）

テーマ：ミュージックセラピー（音楽療法）

講師：家岡妙子 氏（京都音楽学院）

森市佳 氏（JEUJIA フォーラム）

第6ブロック

参加者数：23名

日時：10月30日（木）

テーマ：こんなときどうする？乳幼児から小学生のけがの処置や緊急時の対応方法

講師：元濱啓介 氏（独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 救急科医師）

第7ブロック

参加者数：24名

日時：10月1日（水）

テーマ：遊び100連チャン

講師：研修委員が担当

集団援助技術

参加者数：96名

日時：9月2日（火）

講師：渡邊慶一氏（京都文教短期大学 幼児教育学科 教授）

テーマ：グループの力を活かす

児童館・学童保育所におけるグループ活用の視点

障害のある児童の統合育成

参加者数：108名（18）

日時：10月31日（金）

講師：江川正一氏（京都ノートルダム女子大学 特任教授）

テーマ：特別な支援を要する子どもの指導と支援について

子どもの発達理論（乳幼児期）

参加者数：87名（8）

日時：11月11日（月）

講師：大谷多加志氏（京都光華女子大学 健康科学部 准教授）

テーマ：子どもの発達を理解し育ちを支えるために：現代社会における子育て支援の視点

中堅研修「チームマネジメント研究」

参加者数：45名

日時：2月6日（金）・2月17日（火）

講師：東信史氏（まちとしごと総合研究所）

テーマ：立場をつなぐ言葉の力で現場を動かす ～チームマネジメント実践～

ブロック企画研修②

第1ブロック

参加者数：28名

日時：1月28日（水）

テーマ：子どもの権利・参画について

講師：岸本貴裕氏（一般社団法人 Rights of Child 代表理事）

第2ブロック

参加者数：0名

※講師都合により中止

日時：1月21日（水）

テーマ：おたより・チラシのより良い見せ方

講師：山中美知世（特定非営利活動法人 やさしいデザイン デザイナー）

第3ブロック

参加者数：29名

日時：1月29日（木）

テーマ：高学年の指導法～魅力的な児童館・学童クラブとは？～

講師：森賢吾氏（NPO 京都親子支援センター・チャレンジクラブ 事務局長）

第4ブロック

参加者数：20名

日 時：12月10日（水）

テ ー マ：子どもたちを守る防犯

講 師：友田彰夫 氏（防犯アドバイザー）

第5ブロック

参加者数：18名

日 時：1月28日（水）

テ ー マ：参加型(体験型)乳幼児クラブの取組に関する意見交換会

講 師：

第6ブロック

参加者数：25名

日 時：2月2日（月）

テ ー マ：どう考える？子どもの意見

講 師：研修委員が担当

第7ブロック

参加者数：20名

日 時：1月27日（火）

テ ー マ：保護者対応について

講 師：研修委員が担当

子どもの権利

参加者数：109名（13）

日 時：12月2日（火）

講 師：吉永省三 氏（国連 NGO 子どもの権利条約総合研究所顧問）

テ ー マ：子どもの権利の成り立ちと今日の課題

—— 子どもの権利条約とこども基本法を手がかりとして

施設長研修

参加者数：102名

日 時：2月24日（火）

講 師：門下祐子 氏（京都教育大学 総合教育臨床センター 講師）

テ ー マ：「からだの権利」を尊重したかかわりについて考える

上級研修

参加者数：41名

日 時：2月9日（月）

講 師：木戸玲子 氏（京都市修徳児童館 館長）

テ ー マ：「職員に求められる視点 ～今までとこれから～」

② (一財) 児童健全育成推進財団への派遣研修

児童厚生員等基礎研修会 (大阪会場)

期 間：6月24日(火)～27日(金)

派遣者：中芝芽衣美 厚生員(村松)
西原宗柄 厚生員(百々)
井上佳恵 厚生員(室町)
坂江恵維 厚生員(桂坂)
竹村彩香 厚生員(北白川)

児童厚生員等基礎研修会 (大阪会場)

期 間：9月9日(火)～12日(金)

派遣者：坂本晃一 厚生員(明德)
坂田亜耶 厚生員(北白川)
瀧石笑子 厚生員(南浜)
西尾太樹 厚生員(陵ヶ岡)

全国中堅児童厚生員等研修会

期 間：10月22日(水)～24日(金)

派遣者：井上乃梨子 厚生員(辰巳)
今村崇志 厚生員(山階)

全国児童厚生員等指導者養成研修会

期 間：12月3日(水)～5日(金)

派遣者：古田敏恵 館長(住吉)

全国子どもの健全育成リーダー養成セミナー

日 時：1月30日(金)

派遣者：西村美紀 館長(壬生)
幡司真実 館長(西京極西)
玉井寿尚 館長(ふかくさ輝っず)
村木容子 館長(錦林)
福田翼 館長(衣笠)
浅沼毅一 館長(今熊野)
古田敏恵 館長(住吉)
勝守昭子 館長(桂徳)
川畑依子 館長(梅津北)

児童厚生1級特別セミナー

日 時：2月24日(火)

派遣者：栗田知 厚生員(安井)

3 障害のある児童の統合育成事業

1 令和7年度 事業目標

- 1 ノーマライゼーションの理念とインクルージョンの考えに基づく学童クラブ運営と統合育成事業の推進を図る。
- 2 障害・発達特性や配慮の必要な児童を支える関係機関との連携及び協力体制の確立を目指す。

2 令和7年度 活動報告

・学童クラブ登録児童が年々増加する状況の中で、障害のある児童も含め、配慮の必要な児童が増加傾向にあります。障害のある児童に対する理解の促進や、適切な対応を全職員ができることを目指し、統合育成発達障害及びその他の多様な障害に関する委員会独自の研修計画を立て、施設職員のニーズに応じた研修を予定どおり全て実施することができました。

・関係諸機関との連携並びに介助者派遣事業については、具体的な方策を基に継続して推進することができました。

【活動内容】

(1) 委員会は年6回開催 5月・6月・9月・11月・1月・2月

・主な案件は、研修会の案内及び実施報告、ケース検討会報告、各館への巡回報告、統合育成担当者巡回報告、各ブロック情報交換及び討議

(2) 研修会の開催

介助者研修会（2回 実施）

【第1回 講演】 7月 8日（月） ひとまち交流館京都

テーマ：「障害のある子どもの理解」

講師：京都市教育委員会 総合育成支援課 指導主事 久道佳代子氏

参加者：80名

【第2回 講義&演習】 12月10日（水）京都教育文化センター

テーマ：「遊びの指導の実際」

講師：花園大学 社会福祉学部 専任講師 岡ひろみ氏

参加者：57名

(3) ケース検討会議の開催（8回）…全体会1回・各ブロック希望児童館—7館（7回）

・全体会は9月9日（火）に開催

テーマ：児童館でのケース検討会議の進め方について

講師：京都教育大学 教授 田爪宏二氏

参加者：24名

・ケース検討会議

10月 9日（木）5B 梅津北児童館 11月 4日（火）2B 東和学童保育所

11月13日（木）1B 御前児童館 11月25日（火）6B 羽束師児童館

12月 4日（木）4B 百々児童館 12月18日（木）7B つみき児童館

1月20日(火) 3B 岩倉南児童館

(4)「発達障害実践セミナー」(4回 実施)

「発達援助基礎講座Ⅰ」6月20日(金) 京都アスニー

テーマ:「小学校連携と保護者支援」

講師:京都市児童館学童連盟 主任厚生員(統合育成担当)岡崎 達也

参加者:87名

「ティーチャーズトレーニング」

連続講座:1回目【講義編】7月12日(金) 京都アスニー

2回目【演習編】9月13日(金) 京都アスニー

テーマ:「応用行動分析の基礎」

講師:佛教大学教授 免田 賢氏

参加者:43名(2回目43名)

「発達援助基礎講座Ⅱ」10月15日(水) ラボール京都

テーマ:「子どもてんかんについて」

講師:京都市児童福祉センター診療所 小児科医 越智雅晴氏

参加者:88名

「実地見学会」11月28日(金) 京都市立東総合支援学校

テーマ:「視覚支援と環境整備の実際」

講師:京都市立東総合支援学校 支援部教員

参加者:41名

「発達援助基礎講座Ⅲ」2月13日(金) 京都教育文化センター

テーマ:「統合育成実践交流会 ～障害種別による対応～」

講師:京都市児童館学童連盟 主任厚生員(統合育成担当)岡崎 達也 潮田真一

参加者:75名

(5) 介助者派遣事業について

- ・大学、専門学校、障害児親の会、ボランティアサークル等へのポスター・チラシの掲示及び配架・配布依頼の実施
- ・新聞、広報誌、機関誌への募集記事の掲載
- ・毎週金曜日の登録事務の実施

(6) 担当主任厚生員の巡回業務について

- ・学童クラブ登録児童の行動観察 168回
- ・事例検討会・研修会 32回
- ・関係機関協議 44回
- ・保護者相談 8回
- ・乳幼児クラブの保護者相談等 72回

4 広報活動

1 令和7年度 事業目標

児童館・学童保育所の役割や取組を広く市民に周知し、親しみを持たれる情報媒体を作成し、事業の正確な浸透を図ります。 連盟広報誌の発行（年2回）

(1) 連盟広報誌の発行（年2回）

連盟の広報誌「キッズステーション」は、市民に対し児童館・学童保育所の活動をより深くPRすることを目的に発行します。紙面内容では、市民の目に留まるよう「インパクトのある表紙」、乳幼児、学童児童、中高生、子育て家庭など「ターゲットを絞った特集記事」で編集し、児童館・学童保育所の様々な活動場面で活用できるような構成とします。

(2) 職員情報誌「れんめい ニュースレター」の発行（年12回）

ニュースレターは職員情報誌として、職員研修会の報告、連盟の各委員会、理事会等の動きを正確・迅速に伝えることを目的に発行を行います。また、委員会の進捗状況やブロックからの投稿記事等を積極的に掲載することで施設間の情報共有を図ります。

(3) ホームページ「京都市の児童館」の運営・更新

児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業をPRするために実施しています。それぞれの館・所の魅力を市民にスピーディかつ身近に伝えていけるように、各児童館・学童保育所で独自にホームページを更新できるよう支援します。また、デジタルコンテンツ化したホームページ作成マニュアルの活用を啓発し、職員のスキルアップを支援していきます。

2 令和7年度 活動報告

1 委員会の開催（6回）…①5月16日 ②6月26日 ③8月28日 ④11月5日
⑤1月19日 ⑥3月2日

2 広報誌「キッズステーション」の発行

(1) 発行回数：年2回（4月・10月発行）10号・11号

作成については、11号・12号

(2) 発行部数：1回につき、約14,000部

(3) 配付先：各児童館・学童保育所、育成推進課、福祉・教育関係機関及び団体、各区子どもはぐくみ室、市内19箇所の図書館、報道関係、京都学・歴彩館、連盟理事・監事等（約90箇所）

〔主な記事〕

10号（10月）：「子どもの魅力がいっぱいの児童館の日常をご紹介」

：「子どもの可能性を引き出す児童館」

11号（4月）：「耳を傾けていますか？なんでやねんの子どものつぶやき！！」

3 職員情報誌「れんめいニュースレター」の発行

(1) 発行回数：年12回（毎月10日発行）346号～357号

(2) 発行方法：発行を知らせる全館所メールとアルファオフィスへの掲示、関係機関へは郵送

(3) 送付先：育成推進課、関係機関、連盟理事監事等（16箇所）

4 ホームページ「京都市の児童館」の活用状況

(1) 児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業をPRすることを目的とします。

(2) 当連盟の事業に関する情報についても随時更新を行いました。

5 京都版ミニ・ミュンヘン in 梅小路の開催

1 令和7年度 事業目標

今年度の新たな取組として京都市・京都府からの委託を受けてミニ・ミュンヘンに取り組みます。ミニ・ミュンヘンは、ドイツのミュンヘンで始まった取組で、「子どもが運営する子どもの街づくり」のイベントです。子どもたちは仮想の小さな都市の中で仕事を見つけて働き、お給料をもらい、実際の都市と同じように「遊び」「働き」「学び」ながら子どもが職業体験や市民体験をできることで、社会の仕組みを学ぶ機会を提供することを目的に開催します。開催にあたっては児童館職員と大学生ボランティアとが協力しながら子どもたちとのワークショップを設定し、子どもの意見や主体性を大切にしながら取組を進めます。

2 令和7年度 活動報告

実施にあたって、以下の観点を重要視しながら実施に向けて取り組みました。

- 1 子どもたち自身の希望や思いに基づいた街をつくる。
- 2 子どもたちが遊びながら社会の仕組みを学ぶ。
- 3 子どもたちの主体性、自主性を尊重した企画を実施する。
- 4 子どもの「まちづくり」への関心を高め、地域の更なる愛着心をはぐくむ。
- 5 大学生等に参画を呼びかけ、若者と子どもが触れ合うことで「子ども」や「子育て」へのポジティブなイメージを広げる。

(1) 京都版ミニ・ミュンヘン in 梅小路

日時：令和7年10月25日（土） 10時～15時30分

会場：京都市梅小路公園 七条入口広場

来場者数：約6,000人

内容：各ブロックによる店舗、中高生世代による行政サービスの店舗の他、高校ブースと企業ブースも展開。当日は、「梅小路ニューシティ」にて、市役所で市民になった後、独自通貨である「プラ」を仕事をして稼いだり、稼いだ「プラ」で商品を購入したり、ゲームを体験する等をした。

準備期間に開催された全体ワークショップでは、京都まなびの街生き方探求館にて、京都のモノづくり企業創設者の熱意を学び、モノづくりの体験も行った。また、

京都市会議場では、市長、まちの名前、通貨名の投票を行い、市長・副市長の決定と、「梅小路ニューシティ」というまちの名前と「プラ」という通貨に決定した。

○各ブロックによるブース

8月から全体、各ブロックにて開催されたワークショップに、約200名の子どもたちが参画し、自分たちの理想のお店作りを企画から当日の運営まで子どもたちが主体となり行った。各店舗では、賞品の販売やゲームの他、ショーの開催や体験型の店舗も展開された。

○中高生世代による仕組みづくり、ブース展開

中高生世代スタッフ会議では、中高生世代スタッフが集まり、まちの名前や通貨をはじめ、まちの仕組みやルール、各行政サービスについて検討した。当日は、市役所や銀行、警察等の店舗を担当した。

○高校、企業ブース

高校ブースでは北嵯峨高校生物部と京都八幡高校ボランティア部がコーナーを展開した。また、会場外の企業ブースでは、JR西日本、京都銀行がブースを展開した。児童館・学童保育所だけでなく各種団体の協力を得ることで、来場者がより楽しむことができるようコーナー展開を工夫することができた。

○ステージ企画

開催時間中、子ども市長の演説を司会者との対談形式で3回行った。エンディングでは、京都府知事、京都市長、梅小路ニューシティ子ども市長・副市長による「友好都市宣言」が執り行われた。

(2) 組織体制

京都府、京都市児童館学童連盟の3者による運営委員会（実施に関わる重要事項の審議・決定、予算及び決算の承認等）を設置した。

(3) 担当者会議、中高生世代スタッフ会議の開催

担当者会議を4回開催。

中高生世代スタッフ会議を6回開催。

この取組は、子どもの意見と主体性を最も重要視し、半年以上の期間をかけて京都府、京都市との協力のもと開催しました。児童館・学童保育所のポテンシャルの高さを内外に示すイベントとなりました。児童館・学童クラブ実践の今後のあり方について示唆的な取組となりました。当日は西脇京都府知事、松井京都市長も視察においでになりました。

当日の賑わいや子どもたちがいきいきと活動する様子は多くの市民に対して児童館・学童保育所の活動をPRする機会となりました。

6 京都やんちゃフェスタ2025の開催

1 令和7年度 事業目標

子どもの健全育成と子育ての啓発事業、また、児童館・学童保育所のPRの場として6年ぶりの「京都やんちゃフェスタ」復活開催に向けて取組を進めます。

開催日 令和7年10月25日(土) 午前10時～午後3時
会場 京都市梅小路公園(京都市下京区上中之町1-3)

2 令和7年度 活動報告

京都やんちゃフェスタ2025 実施内容

日時: 令和7年10月25日(土) 10時～15時30分
会場: 京都市梅小路公園
来場者数: 約25,000人

内容: ブロック・ステージ(中央・大宮芝生)・フィールド企画の3構成で実施。当日は天候に恵まれ、数多くの親子連れで賑わうとともに、各種ブースで展開される遊びを通じた交流の場となった。また、今年度は同時開催となる「京都版ミニ・ミュンヘン」との連動企画として、やんちゃフェスタ会場内に、「出張ハローワーク」を設置。やんちゃフェスタ内の各ブースにてお仕事をすると、京都版ミニ・ミュンヘンで使える通貨を貰うことができた。

○ブロック企画

児童館・学童保育所の活動をPRするため、遊びのコーナーを展開した。従来からの「子どもの参画」を意識した取組が行われ、子どもたちによる企画内容の紹介、順番待ちの参加者への対応、職員と同じような役割で企画の進行を行う等の工夫が見られた。京都版ミニ・ミュンヘンとの連動企画として、子どもの参画内容を仕事とし、アルバイトとして当日の来場者も参画し、京都版ミニ・ミュンヘンで使用できる通貨を稼ぐ仕組みを作った。

○ステージ企画

中央ステージでは、「オープニングセレモニー」(京炎そでふれ!)、「ステージ企画」「エンディング」の構成でプログラムを進行した。

ミニステージでは、大宮芝生ステージとゆめ広場前ステージを展開した。中央ステージより小規模という特性を生かし、一体感あるプログラム進行を行うことができた。

○フィールド企画

外部団体によるコーナーでは「ミニサッカーコーナー」「警察・消防体験コーナー」等のコーナーを展開し、各関係機関・団体のコーナーとして展開した。児童館・学童保育所だけでなく各種団体の協力を得ることで、来場者がより楽しむことができるようコーナー展開を工夫することができた。

7 子育て支援のための普及事業

「第13回 京都子ども将棋交流大会」の開催（共催）

洛和会ヘルスケアシステムとの共催で行ってきたこの取組も13回を数え、参加する子どもたちも年々増加し、毎年の取組として定着しています。日本将棋連盟京都府支部連合会のご協力のもと、本戦にはプロ棋士にも参画していただきました。また、昨年引き続き北野天満宮のご協力をいただき、会場は北野天満宮内文道会館で開催し、子どもたちにとって貴重な機会となりました。令和6年度は夏の開催としましたが、今大会については、例年通り3月（令和8年）に開催としました。

<第13回 京都子ども将棋交流大会>

○開催日時・開催方法

予選 各児童館・学童保育所にて本戦に臨む選手を決める予戦を実施する。

本戦 開催日時： 令和8年3月7日（土）10時～16時

会 場： 北野天満宮 文道会館

○参加人数（申込数）

予選 52施設 414名

本戦 低学年の部 49名

高学年の部 41名（43名） 計90名（92名）

保護者等引率者 87名 当日参加者 合計177名

8 大学と連携した学習支援事業

1 令和7年度 事業目標

本事業は、「子どもの学力・学習等の状況」、「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼し、これらの課題に対して、地域の子どもたちへの学習支援に取り組むものとし、大学生ボランティアの力を生かし、保護者以外の大人との関わりの機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもの孤立化の解消を図ります。

2 令和7年度 活動報告

(1) 事業の実施体制

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学生：子どもへの学習支援、相談支援

京都市：事業への助言、技術的指導等の支援

児童館学童連盟：事業を実施する児童館のサポート

(2) 実績

連携協定締結大学をはじめ、他校の学生も含めてボランティア活動体験の学生を近隣の児童館とつなぎ、大学生に学習支援事業を体験する機会を作りました。

令和7年度は38館の児童館で約800回実施しました。

9 学童クラブ利用料算定事業

1 令和7年度 事業目標

京都市の学童クラブ利用料金は、登録者が利用する内容に応じた応益負担制となっています。連盟事務局では委託を受けた児童館・学童保育所の利用料算定事務を、公平・適正かつ速やかに実施することを目標に業務を進めます。

2 令和7年度 活動報告

学童クラブの登録児童数は従来から増加傾向にありましたが、「子ども子育て支援新制度」開始により利用対象児童が小学校6年生までに拡大されたことを受けて、利用者ニーズは拡大を続け、令和7年度の登録児童数は16,000人を超えています。

令和5年度からの本システム導入以降、WEBから登録申請の手続きができるように整備し、利用者には便利になった反面、WEBデータの入力ミスの確認、問合せ、修正作業、決定書の発行し直し等、従来にはない事務負担も発生しております。

連盟事務局では加盟団体における事務が滞ることのないよう、随時利用料金算定システムの改修整備を行い、迅速に利用料金の決定通知を施設に届けられるよう努めました。特に1月から3月にかけては、令和7年度の料金算定事務と並行して令和8年度に学童クラブに登録される世帯の利用料金の算定も行い、当初の利用料金決定通知書を3月30日に発送することができました。

10 京都市家庭ごみ有料指定袋無償配布事業

1 令和7年度 事業目標

連盟は京都市から新生児出生世帯に対する配布窓口事務を受託しています。

市内全児童館でスムーズな配布事業を遂行するとともに、新生児を持つ世帯に対し、児童館が実施している乳幼児対象事業及び子育て支援の機能について、周知広報することを目標とします。

2 令和7年度 活動報告

(1)配布対象

京都市内の新生児を養育する世帯で、京都市保健福祉センターから届けられる「出産お祝いレター」の受取世帯を対象とします。

(2)配布内容

出産お祝いレターに同梱されている「家庭ごみ有料指定袋無料引換券(新生児減免用)」を児童館に持参された保護者に対して、指定袋(燃やすごみ用)「30リットル袋40枚」、又は「20リットル袋60枚」の引換配布を行いました。その際、保護者に対し、児童館の乳幼児対象プログラムを記載したPR用のチラシ等を配布し、児童館の利用を促すためのPRを行いました。

(3)引換実績

児童館では毎月末に集計を行い事務局に報告、事務局では全館集計の結果を環境政策局資源循環推進課へ報告を行いました。令和7年度の総引換え件数は1123件となりました。

11 無料職業紹介事業

1 令和7年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保を進めることを目的に、平成31年1月に厚生労働大臣の許可を受け、「無料職業紹介 児童館人材マッチングセンター」を開設し、登録会員数、マッチング数も徐々に増えています。その中で、求人者(人材を求める運営団体)のニーズをきめ細かくリサーチし、求人者と求職者の双方に満足のいくマッチングを実現し、連盟加盟各団体の児童館・学童保育所における人材確保を通じてその事業実施支援に努めていきます。

2 令和7年度 活動報告

児童館人材マッチングセンターのPRを推進するため、児童館職員という職業の魅力を知ってもらえるように作成されたパンフレットを活用し広報に力を入れています。

マッチングセンターに来所される方の希望を聞き出し、ていねいな紹介業務を行っていることにより、複数回相談に来所される方も多く、その都度適切な御案内をしています。

求職者よりも求人数が圧倒的に多く、全般的に人材不足が大きな課題となっています。

また、就職フェア(京都市保育園連盟主催)に2回参加し、希望する会員の求人情報を持参し、来場者にPRを行いました。

マッチングセンター紹介事業実績(期間:令和7年4月1日~令和8年3月31日)

(1) 求職登録	正職員	3名
	臨時的任用職員	5名
(2) 求人登録	正職員	42件
	臨時的任用職員	29件

《マッチングセンター広報活動》

～SNSの導入・活用に向けて～

マッチングセンターのより強固な広報活動の一手として SNS の導入・活用に向け、準備を進めています。Instagram を中心とした SNS 活用の導入準備を進め、マッチングセンターの活動内容を効果的に発信するためのテーマ設定や投稿形式の検討を行い、併せて動画投稿に活用する動画編集ソフトの導入を検討中です。

動画編集ソフトについては、短尺動画の作成やテンプレート活用が可能な複数サービスを比較し、センターの業務フローに適したツールについて、検討を進めています。

これらの取組により、来年度の SNS 運用開始に向けた準備を着実に進めています。

12 大学生等職業体験事業

1 令和7年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保については困難な状況が続いています。その中で、京都芸術大学、京都橘大学、京都市、連盟の4者が連携協定を締結し、児童館において職業体験事業を行うことで、学生ならではの発想や行動力を生かした児童の健全育成活動の活性化や、大学生の知識や技術の向上、人材の育成を図り、児童館で働きたいといった意欲を持つ学生を今まで以上に増やすことを目指しています。

2 令和7年度 活動報告

令和7年度は、京都橘大学から1名の参加があり、1箇所の児童館で職業体験事業を行いました。また、京都芸術大学からは9名の参加があり、4箇所の児童館で職業体験事業を行いました。それぞれの大学と連携を図りながら行い、5日間の体験期間を通して参加した学生には、①地域における児童館の役割について ②児童館職員の役割について を事前のガイダンスや事前オリエンテーションで説明し、児童館職員として働くことの魅力を伝えながら進めていきました。実際の体験活動の際には、子どもたちとの関わりや事業体験だけではなく、職員会議への参加等、児童館で働くことを意識できる内容を取り入れながら行いました。

<京都橘大学>

スケジュール

項目	内容
事前学習 (6月初旬)	・ インターンシップに向けた基礎的準備学習 ・ エントリーシートなどの提出書類の作成
オリエンテーション (6月21日)	・ インターンシップの流れ ・ 目的、目標の参加学生同士での共有
施設訪問 (7月初旬)	・ 施設の説明 ・ エントリーシートの提出
実習 (7月30日～9月5日)	・ 就業体験
事後報告会	・ 振り返り

(11月)	
-------	--

【参加学生】

- ・京都橘大学2回生 1名参加
- ・受入先：大宅児童館
- ・受入日数：5日間（令和7年7月30日～9月5日の期間から5日間）

<京都芸術大学>

スケジュール

項目	内容
事前ガイダンス (7月30日)	・事業ガイダンス ・研修「児童館の機能と役割」 ・質疑応答
施設での職業体験	・8月18日～9月12日（うち5日）
事後報告会 (9月19日)	・体験の振り返り資料をもとに、体験事業を通したきづきを共有

【参加学生】

- ・京都芸術大学2回生 9名参加（各施設2～3名の参加）
- ・受入先：京都市明徳児童館、京都市修学院第二児童館、京都市北白川児童館、京都市錦林児童館
- ・受入日数：5日間（令和7年8月18日～9月12日の期間で調整）

13 フードドライブ事業

1 令和7年度 事業目標

食品廃棄（フードロス）の削減に向けた取組として、令和4年度から本格実施を行っているフードドライブについて、児童館・学童保育所が取り組むにふさわしい事業として引き続き実施していきます。また、子どもたちがこの取組を自らにかかわる問題として考えていくきっかけとすることや、例えば老人施設等の実現可能な取組を模索することなども含め、連盟としてこの事業に取り組んでいくことの意義の明確化に努めてまいります。

2 令和7年度 活動報告

令和7年度は、全館所を対象にブロックごとに実施し、全体で約1.4トンの物資が集まり、NPO法人セカンド・ハーベスト京都を通じて必要とする方々に届けられました。

また、今年度は試験的に京都府社会福祉協議会と京都市社会福祉協議会とも協力し、必要とされる方々に届ける活動を行いました。

ブロック	実施期間	回収量（kg）
1ブロック	5月12～17日	160.6

2ブロック	6月9～14日	114
3ブロック	9月8～13日	221.3
4ブロック	10月14～18日	85.3
5ブロック	11月10～15日	93.6
6ブロック	1月13～17日	156.6
7ブロック	2月9～14日	51.9
合計		883.3

また、京都府消費生活安全センターと連携し、大学生による食品ロスについての出前講座を全ブロックで行いました。

ブロック	施設名	講座実施日
1	上京児童館	8/22 (木)
2	修徳児童館	6/11 (火)
3	高野児童館	10/15 (火)
4	大塚児童館	9/9 (月)
4	醍醐児童館	2/13 (木)
5	梅津北児童館	11/13 (水)
6	横大路児童館	1/16 (木)
7	川岡東児童館	2/4 (火)

いずれの取組も、子どもたちがフードロスについて興味を持ち、自らにかかわる問題として考えていくきっかけになりました。

14 京都市ファミリーサポート事業

1 令和7年度 事業目標

近年、共働きでの子育て環境は整いつつあるものの、保育園、幼稚園の保育時間と保護者の就労時間との間に依然として齟齬があります。加えて習い事等の増加により依頼会員のニーズは多様化しており、その幅広いニーズに応えるためにも提供会員の確保と定着を図ることが大きな課題となっています。

そこで、「やんちゃフェスタ」にブース展開し、幅広い市民にファミリーサポート事業をPRする取組を行うとともに、ホームページを随時更新し、幅広い層に訴求する取組を強化します。依頼側、提供側の会員が双方共に安心して活動できるよう提供会員に対して救命講習の受講を促します。

また、提供会員同士で悩みを共有できるような交流の場を設け、活動に対する不安を少しでも和らげ、安心して活動に臨めるような機会を検討します。

さらに、今年度は3年ごとの会員更新の年にあたり、会員情報の収集、および、会員証の発行作業を迅速に進めます。

2 令和7年度 活動報告

(1) 会員の登録数と活動内容

①会員数の推移

	令和7年度			
会員種別	年度末会員数(人)	入会者数(人)	退会者数(人)	増減数(人)
依頼会員	4,298	475	633	▲158
提供会員	902	39	75	▲36
両方会員	121	1	20	▲19
合計	5,321	515	728	▲213

(分析) 依頼会員について令和7年度の入会者数は475名、新規入会者数は平成31年度から400名以上を維持している。一方退会者数は633名と新規入会者数を上回っている。これについては、平成22年度～28年度に700名を超える入会者数(平成25年度は920名)があり、その登録した子どもが成長し、依頼会員として登録できる子どもの年齢、満12才を超え、退会手続きを行うため、退会者数が増加していると考え。提供会員、両方会員については、例年、会員数は横ばいで経過していたが、令和7年度は会員更新の年にあたり、今後を見据えて、年齢、介護等の家庭環境の変化等の理由により、退会することを決めた会員が増えたための退会者数の増加と考える。

②活動数と活動内容

活動数

	令和7年度
活動総数	8,390

活動内容

活動内容の上位	令和7年度
1. 子どもの習い事等の援助	2,083
2. 保育施設の迎え及び帰宅後の援助	1,969
3. 保育施設の登園前の援助及び送り	1,554

(分析) 平成28年度までは、「①保育施設の迎え及び帰宅後の援助」「②保育施設の登園前の援助及び送り」「③子どもの習い事等の援助」が上位3位の順番であったが、平成29年度から「子どもの習い事等の援助」が2位に浮上し、令和5年度から「子どもの習い事等の援助」が1位となった。ファミリーサポート事業を必要に迫られて利用することが減少してきている。

(2) レベルアップ講習会の開催について

①事故防止のための救命講習の開催

「普通救命講習Ⅲ」については受講者を増やすため、6回開催し、未受講者へ受講を促し

ました。

②資質向上のための講習会の開催

「栄養と食生活」、「発達特性のある子どもへの対応」「児童虐待防止のためにできること」を開催しました。

(3) ホームページの更新について

会員数、活動数、登録会・講習会の開催について、毎月初に最新のデータに更新を行いました。

(4) 啓発活動について

「京都やんちゃフェスタ 2025」のおむつ替え・授乳コーナーにて、地域リーダーが幅広い市民にファミリーサポート事業を PR する取組を行いました。

内 容：リーフレットを利用した事業の P R

日 時	令和 7 年 10 月 25 日(土)10 時～15 時 30 分
会 場	梅小路公園
参加者	乳幼児親子約 80 組

(5) 会議・登録会・講習会・交流会等実績

①会議

会 議	内 容	時間数	回数
地域リーダー会議	広報活動の準備、登録会・講習会での体験談の報告内容の調整 等	2 時間	11 回
支部長会議	統括、次年度の計画 等	2 時間	1 回

②登録会・講習会

登録会・講習会	内 容	時間数	回数
登録会（本部 3 回・支部 45 回）	依頼会員に登録するための登録会	1 時間	48 回
講習会（本部 2 回・支部 3 回）	提供会員に登録するための講習会	6 時間 30 分	5 回
レベルアップ講習（実技）	普通救命講習Ⅲ	3 時間	6 回
レベルアップ講習（講義）	栄養と食生活	1 時間 30 分	1 回
レベルアップ講習（講義）	発達特性のある子どもへの対応	1 時間 30 分	1 回
レベルアップ講習（講義）	児童虐待防止のためにできること	30 分	1 回

(6) 会員更新について

令和 7 年 9 月発行の会報誌（ふぁみさぼ通信）の発送の際に、全会員に会員更新手続の書類を同封し、令和 7 年 11 月末までに更新書類にて登録情報の変更の返答を求めた。それ以降、返信された更新書類を元に、会員情報の更新、依頼会員証の発行の事務処理を行い、依頼会員証（有効期限：令和 11 年 3 月末）を令和 8 年 2 月初旬に発送した。

II 施設運営

1 児童館の運営

1 令和7年度 事業目標

ガバナンスの構築を進めながら、公的事業を担う法人として「公正性・透明性」「健全性・効率性」を確保した運営を重視し、利用者や市民へ向けた説明責任を果たすことで透明性のある施設運営を推進していきます。連盟が運営する8箇所の児童館は、地域の関係団体とも連携を密にし、市民の期待に応えられる児童館運営に取り組みます。また、職員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上、資質の向上に取り組み、職員の研修機会を積極的に設けていきます

2 令和7年度 活動報告

各児童館の令和7年度の事業目標と成果は下表のとおりです。幅広い年代のニーズをつかみ、学校や地域の関係機関と連携を図りながら活動を進めるとともに、各館の個性を生かして「こどもの意見表明」を意識した「こどもまんなか」を実現するための模索を深めたことが伺えます。

		児童館事業	学童クラブ事業
壬生児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○気軽に立ち寄れ、地域に親しまれる児童館となれるよう、乳幼児クラスや子育て支援講座等の充実を図ります。 ○遊びを通して、子どもたちの健全育成と社会性の向上を目指します。 ○地域の関係機関と情報を共有し、連携を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身につけ、遊びや集団生活を通して協調性や自主性を養います。 ○子どもたちが主体的に活動し、一人ひとりが活躍できる機会や場となるように努めます。 ○保護者が安心して預けられるよう信頼関係を築きます。 ○学校や地域、関係機関と連携を図ります。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○登録制の乳幼児クラブでは、0歳児クラスの利用者が増え、取組後のランチタイムも一緒にゆっくり過ごされるなど、子どもだけでなく、保護者同士の交流が深まりました。 ○毎月の子育て支援講座の1つとして、母親同士で結成した歌のサークルによるコンサートの機会をつくることができました。コロナ禍を経て5年ぶりのコンサートは大盛況で、来場者の中にはメンバーに入りたい方も出るほどでした。今後も利用者が一緒になって楽しめる内容を工夫していきたいです。 ○実習中の大学生による防災教育やフリーマーケットの開催、小学生と乳幼児親子の要望から、実習生との交流の取組をすることができました ○卒館生の高校生は、遊びや学習支援のボランティア活動をしたいと通い、秋祭りには工作ブースを担当し、大盛況でした。いろいろな人が気軽に集える場所として、今後も地域と共に取組を充実させてまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お誕生日会や大きな行事の中で、子どもたちの「やりたい」気持ちを大切にし、どの子にも出番があるように工夫してきました。それぞれの役割を果たすことで自信に繋がり、友達のことを認め合い、周りのことも考えて行動することが増えました。年度末には学年ごとにこども会議を開き、振り返りと今後について話し合うことができました。「自分たちが（職員も一緒に）創っていく学童クラブ」という意識が強まりました。今後も学童クラブにしかできない子どもたちのドキドキワクワクを創っていきたいと考えています。 ○秋祭りでは、運営協力会・社会福祉協議会・民生児童委員の方々・みぶ会保護者などの協力を得て、キッチンカーも含めた食べ物ブースの復活が実現しました。こどもたちも模擬店の準備から当日の役割まで班メンバーで協力しながら取り組み、買い物も楽しみました。お店をする側の大変さや、人と協力することの難しさも経験すると同時に、多くの人とも交流が図れました。 ○登録制の教室・クラブでは、真剣に練習と向き合い、メンバーの一員となって頑張る姿や、本番で力を発揮する姿が見られました。

七条第三児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○身近にある児童館として気軽に立ち寄り、子育て相談や仲間づくりができるよう支援します。 ○子ども自身が企画し考える力を伸ばせるような取組をすすめます。 ○情報収集をしっかりとニーズに合わせた思春期児童の居場所を確立します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣や社会性を身につけられるように段階をふまえ指導します ○子ども達が主体となれるような取組をふやし生活場面に応じた行動力をはぐくみます。 ○縦割りを意識し、3年生以上のリーダーシップを育てます。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児クラブ、あそびの広場ともに多くの参加者があり、仲間づくりの一端を担うことができました。また、近隣の公園へ出向き「出前児童館」を何度か実施したことで、児童館の周知やその後の利用につながりました。また、乳幼児フェスやイベント等、多角的な取組を増やした結果、児童館の専門性など活動内容を知っていただくことができました。 ○児童の発達や心のケア等について専門性をもった外部の方からアドバイスをいただきながら職員のスキルを高めるように努めることで、日常の利用者へのサポートにつながりました。 ○来館児童の思いや意見を受ける活動を意識的に作り、行事や日常の取組で企画が実現できるような体験の機会を多くつくりました。活動しやすい環境をつくることで体験の幅が広がり、自主性・主体性の育成につながりました。 ○中高生には継続的に関わり、話し相手となるよう関係を築きました。日常的な居場所づくりに加え、児童の「やりたいこと」を実現させたりイベントを増やしたりすることで継続的な利用につながり、多世代交流等へ活動展開することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとに昼食やおやつ時間を区切ることによってその年齢に応じたルールやマナーを体験的に学習しました。特に1年生はランドセルのしまいや荷物の整理、学習など4月のうちに丁寧な説明する等、積み重ねを経て基本的な生活習慣を身につけることができました。また、遊びを通して社会性の育成に努めました。 ○子どもたちの意欲や意見の尊重を意識した取組が実現できるよう支援しました。特に、児童館のルールについて、子どもたちが意見を出し合う「子ども会議」を設け、熟考し決定から周知までをすべて担った活動は子どもたちの主体性・社会性を養成する体験となりました。また、あそびの大会や季節行事等、職員が計画するのではなく子どもたちが予定と内容を組み立て、子どもたちの発信で活動できる場面を意識的に増やしたことで主体性が育まれました。 ○各学年会議を中心に、それぞれの目標をたて、その後学童クラブ全体の目標につなげていきました。特に3年生以上には活動の企画・運営を任せ、中心となって実施する体験を重ねることで、他者との関わり方を学び、仲間意識や責任感、自主性が育まれました。

今熊野児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童館活動において、学童クラブ児童とともに自由来館児童にもさまざまな遊びの体験の機会を提供し、一人ひとりの児童が個性豊かでたくましく、思いやりのある人間として成長できるよう、主体性と自ら判断し決定する力を育てます。 ○乳幼児の保護者同士の交流の機会を設ける等、子育ての仲間づくりの場となるよう人と環境、相互に働きかける視点を持って活動を行います。 ○子どもと地域住民の世代間交流等の推進に取り組み、より敷居の低い児童館づくりを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中で子どもの自立を積極的に促進し、さまざまな生活場面に応じた判断力、行動力を育めるよう支援します。 ○あそびや活動を通して、子どもが達成感や学童クラブへの所属感を得られるよう支援します。 ○保護者の就労等の生活を継続的に支える安心安全な支援を推進します。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生を対象としたクラブ活動や竹馬道場、検定といった各種の行事を通して、子ども同士がお互いに思いやりを持って行動すること、自らチャレンジすることで達成感を感じられるようにすること、を中心に支援し、主体性と自ら判断し決定する力を育てることができました。 ○乳幼児登録制クラブの活動を通じて、気軽に参加、相談しやすい雰囲気づくりに努め、孤立感や不安を感じやすい子育て家庭への支援を推進し、東山区での子育て支援の取組の利用促進も図ることができました。 ○児童館まつりなどの行事を通して、地域の方々に多くの参加をしていただき、地域での世代を超えた交流を推進し、地域の中の児童館という意識を高めていただくことができた。今後も、地域の方が気軽に訪れることができる場所を提供できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○縦割りのグループ活動を通して、上級生はリーダーシップを発揮して下級生をサポートし、下級生は上級生の姿を見てどのように行動すればよいかを学べるよう、支援、援助を行い、自分たちで、用意や片付けなどを役割分担して行うようになるなど、子ども一人ひとりの状況に応じた「生活力」を獲得させることができました。 ○保護者の状況に配慮し、ICTを積極的に活用するほか、従来からの電話やメールによる連絡手段の併用、お弁当いらぬデー等の実施による負担軽減等を行い、「保護者としての役割」を継続的に支える援助を推進できました。今後も、相互の信頼関係を醸成できるよう、努めてまいります。

四ノ宮児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を促進し、地域の方々に信頼され、親しまれる児童館を目指します。 ○地域各種団体と情報を共有しながら、地域、利用者のニーズに応えられるよう活動を行います。 ○児童館の取組を通して、地域の方々の多世代交流を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での生活や遊びを通して、児童が主体的に活動し、社会性を身につけられるように支援します。 ○児童、保護者にとって、安心できる居場所、生活の場となるよう努めます。 ○児童一人ひとりへの理解を深め、保護者や関係機関と連携し、個々の状況に合わせた支援を行います。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児クラブは、参加者が減少する中、クラスをまとめ、参加していただく回数を増やす等して、親子で楽しんでいただくことができました。また、児童館の取組を通して、保護者同士がつながる機会となりました。 ○各クラブ活動は内容が充実し、ジュニアクラブ児童は、乳幼児親子向けのイベントの企画・運営をする等、子どもたちが主体的に活動する場面が増えました。お習字クラブも、新聞に作品を掲載していただく等、子どもたちのやりがいにつながっています。 ○地域の取組にも積極的に参加し、ソーランの踊りを披露させていただく等して、地域の方々と交流することができました。 ○児童館の様々な取組を通して、地域の方々との交流を図ることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年児童が、リーダーシップを発揮し、様々な活動の中で、低学年児童を引っ張っていく姿がみられました。 ○自分でできることは自分で行うこと、児童自身が考え、自分で決めることを働きかけ、子どもが主体的に活動することが増えました。 ○手洗い・うがい・消毒や、宿題に取り組むことが、日常の習慣として身につけています。 ○子どもたち一人ひとりを理解するよう努め、個々に合わせた対応を心掛けました。また、保護者の思いを受け止めながら、小学校や関係機関と連携して支援を継続しました。

梅津北児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者からの多種多様なニーズに応えられる多機能性を生かし、地域全体で子どもを育てていくための中核的役割を果たします。 ○地域に寄り添い、地域の拠点となり広報に努めるとともに子どもの最善の利益を優先し、「こどもまんなか」を意識した育成を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学童クラブを「安心できる居場所・拠り所」として確立していきます。 ○異年齢集団としての連帯感を深めとともに、互いの違いを認め尊重し合える関係を築きます。 ○個々の状況に応じた支援のもと、自立に向けた生活習慣を身につける力を育みます。 ○家庭や関係機関と連携し、保護者が安心して子育てできるよう支援します。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「乳幼児クラブ」や「広場活動」を通して子育て家庭のつながりを大切に取り組みました。今年も転入してこられた方や第一子の保護者にとって地域の情報が得やすいように保護者同士の関係をつなぐことを意識した支援をしました。その結果、クラブや広場後も「ランチタイム」や「カフェタイム」を落ち着いた情報交換の場として利用いただくことができました。 ○学校や地域との連携事業を充実させました。特に社会福祉協議会の皆様と連携を図り、独居高齢者の方へ向けて子どもたちが植えたお花を届ける取組は大変好評をいただきました。 ○子どものやりたい声を拾い「ぬりえ大会」「紙飛行機大会」等を実施しました。特に「おぼけやしき」は高学年の意見も多く取り入れ準備を進め、当日は親子の参加者も多く、準備した子どもたちの満足度も高い行事となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年もメッセージアプリを用いて日々の子どもの様子を丁寧に伝えて情報を共有することで「安心できる居場所」づくりに努めました。さらに、学童クラブの保護者同士をつなぐことを目的の1つとして開いた交流会では、みんなあそびを体験していただく日や、いちご狩りとケーキ作りをする日があり保護者同士の交流を促すことができました。 ○3年生会議を月1回定例化して、みんな遊びの進行を3年生中心に進めてもらい、学童クラブの年長という意識をもつよう促していきました。一年間続けていくことで異年齢集団の連携を深めていくことができました。 ○日常から小学校との情報共有はしていますが、今年は夏休み前に各クラスの教職員の方と情報交換を行い、長期休業中のきめ細かな支援につなげることができました。 ○年度後半より、育成室や廊下の清掃を子ども達と毎日行うことにより、特に整理整頓の意識づけを促すことができました。

西京極西児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○来館者にとって居心地の良い場所を提供できるように努めます。 ○職員の個性を生かした取組計画を立案し、子どもの主体性や積極性を育みます。 ○地域や関係機関との連携を密にし、信頼関係を築きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の場として居心地のよい場所作りと異年齢とクラス別をいかした活動を心がけます。 ○学童クラブ修了後の生活を見据えた活動を行えるよう支援します。 ○保護者との信頼関係を大切にし、日々の声かけを意識し寄り添えるように努めていきます。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児親子に対して、クラブ以外の自由あそびの日にも丁寧な声かけを心掛けました。保護者との会話を通して、日頃の育児の悩みや、保護者同士を繋げ、児童館にも足を運びやすい雰囲気作りに努めました。また、利用者満足度アンケートの意見を参考に、子育て講座の内容を計画・実行し、喜びの声を聞くことができました。 ○登録制クラブの継続と、新たなクラブも発足し、多様な子どもに対応できるよう、選択肢を増やしました。また子どもたちが積極的に取り組めるよう、子どもたちの声に耳を傾け、プログラムを立案しました。 ○地域や学校のイベントや会議への参加、地域の方を児童館の取組に講師として招くことで、子どもたちと交流を交え、日頃の様子を知っていただく機会を作りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスの目標を決め、クラス対抗で取組を行うことで、子どもたちの集団活動に対する意識を高めました。 ○児童館生活をより過ごしやすくするため、3年生会議、高学年会議を行い、学童クラブについて考える時間を持ちました。少人数での特別なイベントを実施し、積極的に子どもたちが意見を出し合えるよう、会議を運営しました。 ○個人懇談会等で、休みの日等児童館外での過ごし方の相談に乗り、自立に向けて提案しました。 ○細かいことでも保護者と連絡をとり、日々の様子を伝えることを心掛けました。児童館まつり等の親子参加型イベントには、クラブの作品を展示し、保護者にも足を運んでもらいやすい機会を増やすことで、たくさん参加していただくことができました。

南浜児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びを通じて子どもたちの健全な育成と社会性の向上・自立心を養います。 ○地域の各種団体と連携し、子育て家庭の支援に力を入れると共に、地域の方々と交流を図ります。 ○中高生世代の居場所作りを促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちのおかれている状況を把握し、保護者・学校・地域と連携しながら、社会性を養い、基本的な生活習慣を確立させます。 ○集団生活の中で自立心・責任感を育成し、協調性を養います。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、一般来館者が戻ってきたように思います。まだ罹患の報告は有りますが、人数制限も解除し楽しく遊んでいました。児童館が来館者にとって、安心・安全な居場所であるためにこれからも工夫をして来年度に繋げたいと思います。 ○地域の行事も開催に向けて話し合いを進めていましたが、今年度も中止になる行事があり、来年度について話し合いを継続していくことで終わりました。 ○中高生クラブは、毎月、少人数ではありましたが、参加者は楽しく過ごせました。 ○乳幼児クラブは、「たんぼぼ・ひだまりクラブ」については、昨年同様、予約制で、10組から15組に参加人数を増やし開催しました。その他の行事も人数制限を解除し開催して、参加親子には大変喜んでいただきました。ランチタイムも子どもを連れていける場所が少ない中、保護者の方も喜んで利用され、知り合いとゆっくり話ができることに喜んでいただきました。また、本の貸し出しが浸透し始め、楽しみにしている幼児さんもいて良かったです。 ○秋には、飲食抜きでしたが、お化け屋敷等「みなみはまパーク」を開催し地域の方との交流ができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○例年以上に保護者・学校との連携は密に行いました。地域とは、行事の中止が多い中、「生涯学習フェスティバル」に参加し、行事を通じ学童クラブ登録児童と地域住民との交流が少なくなりました。 ○新1年生の登録数が多く、2年生以上も退会が少なく、常にバタバタした一年になりました。 ○5類に移行しても、インフルエンザ・コロナウイルスのため、マスクが外せず付けている児童が多くみられました。着用については、保護者と相談して決めてもらい、咳が出る時は、着用を指示しました。 ○目標に掲げている「集団生活の中で自立心・責任感を育成し協調性を養うこと」については、職員が声を掛け、上級生が下級生のお世話をする等、集団生活の中で培うことができました。 ○夏は猛暑・酷暑で、外に出る危険を考え、館庭での遊びを控え、室内での遊びを充実させました。熱中症対策として、絶えず水分補給を促し、体調管理に配慮しました。 ○秋には、「みなみはまパーク」・「伏見子どもまつり参画」、冬には4年生以上は、一泊キャンプを3年生までは、お出掛けと行事を広げることができました。

横大路児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援事業の充実を図り、利用者に寄り添った活動を行います。 ○伸び伸びと活動させる中にも規律を重視します。 ○各種地域団体や関係機関との情報を密に連携します。 ○「しもよこっ子」開催団体との連携を強化します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学童クラブのルールを守ることで学びを身につけます。 ○規律のある生活習慣を身につけます。 ○手洗いなど感染対策への予防を徹底します。 ○登下館の際の安全指導を徹底し、子どもたち自身の安全意識を高めます。 ○保護者との信頼関係を築き、安心して子育てができるよう支援します。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児クラブの回数を増やしたことで、保護者同士の繋がりができました。イベントや行事を多く取り入れ子育て支援の充実を図ることができました。 ○一寸ぼうしの広場等の事業を通じて、地域の子育て支援活動に活動場所を提供し、地域の事業に職員を派遣することで地域との連携を図ってまいりました。 ○広場活動では一人ひとりに寄り添い、子育ての話をしやすい雰囲気づくりを意識して行いました。その中で、職員間で情報共有を図りながら施設全体として関わり続けることで、乳幼児保護者の居場所の一つとなれるように事業を進めました。 ○中高生世代には、サンタの衣装を着て乳幼児親子さんの所へ訪問してプレゼントを渡す企画し、乳幼児親子と中高生ともに喜びを感じられる取組となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年も感染対策には意識し手洗い、消毒の指導を徹底して行いました。 ○遊びやクラブ活動を通して、友だちとのかかわり方、集団生活でのルールやマナーを知り、協調性や社会性を養う機会につながりました。 ○生活習慣を意識して取り組むことで、遊びや宿題をする時間を子どもたちで意識して放課後の時間を過ごすことができました。 ○帰りの会の後に読書タイムを設けることで、絵本や児童書を読む子どもたちが増えました。 ○親子参加の取組を実施し、運動会を開催したことで、保護者同士の繋がりを作ることができました。 ○毎月のお誕生日会は、子どもたちが主体となり企画など意見を出し合い取組を行うことができました。

2 つどいの広場運営事業

京都市から京都市子育て支援活動いきいきセンター(京都市乳幼児親子のつどいの広場)の運営を受託して実施する事業です。連盟が運営する「のこちゃん広場」が立地する洛西竹の里地区は少子化が進行し、特に0歳～3歳までの未就園児親子が、自然に親子同士で交流し、仲間作りをする機会が少ない状況にあります。その中で、子育て親子の孤立を防ぐことが趣旨の一つであるつどいの広場の運営に当たって、以下の目標を掲げて事業を実施しています。

1 令和7年度 事業目標

- (1) 地域の組織と緊密な連携を取りながら運営を進め、子育て親子と地域住民が交流を促進できるイベントを継続的に実施します。
- (2) 支援が必要な子ども・家庭について専門機関との連携を密にし、解決の糸口や対応の方法を探ります。
- (3) 利用者が頻繁に立ち寄り、子育ての悩みや相談について専門知識を持つアドバイザーへ気軽に相談できる態勢づくりを行います。

2 令和7年度 活動報告

つどいの広場事業では、Instagramを活用した情報の発信を行い、家庭内で親子が孤立感を持つことなく穏やかに過ごせるような情報提供を行いました。また、電話や電子メールによる子育て相談を実施しました。

利用者に安心して利用していただくために、一度に利用できる人数に制限を設けて運営しました。また、コロナ等の感染症対策として、室内の消毒、使用後のおもちゃの消毒を行うとともに、室内の換気を行いました。

交通が不便な場所のため、徒歩や自転車で子どもを連れて来れない方のために駐車場を確保し、利用者に活用していただけるように配慮をしました。

初めて来られる人を対象とした「初めての日」を設定し、毎月開催することによって、新規の利用者を獲得しています。

活動としては、子育て親子のふれ合いの場として「簡単にできる手作りグッズ」等のプログラムを充実させたほか、地域からの参加者も受け入れるヨガ教室を行い、幅広い世代が子育て家庭と知り合うきっかけを作りました。

また、職員の外部研修(オンライン開催等)に積極的に参加し、市内や全国の広場のスタッフが集まる研修・会議に出席することで、子育て支援に関する知見を深めるよう努めました。

なお、令和8年3月からは東竹の里市営住宅58棟102号室に移転し、以前よりも広く新しいスペースで事業を展開しています。

Ⅲ 法人管理

1 会員

会員数	令和7年4月時点	54会員
新規加入		0件
退会		0件
令和8年3月末会員数		54会員

2 総会・理事会

令和7年度（令和7年4月から令和8年3月）の総会・理事会の開催経過は次のとおりです。

(1) 総会

会議の通算回数、開催日及び場所	出席者数等	議 題
第16回定時総会 (令和6年度決算総会) 令和7年5月29日 京都テルサ	会員社員総数54名 出席会員社員数37名 (うち書面による出席者17名)	○承認及び決議事項 (1) 令和6年度事業活動報告(案)の承認 (2) 令和6年度収支決算報告(案)の承認 (3) 役員選任の議決
第18回臨時総会 (令和8年度予算総会) 令和8年3月27日 京都テルサ	会員社員総数54名 出席会員社員数35名 (うち書面による出席者21名)	○決議事項 (1) 令和8年度事業計画(案)の議決 (2) 令和8年度予算(案)の議決

(2) 理事会

会議の通算回数、開催日及び場所	出席者数等	議題
第73回 理事会 令和7年5月13日 京都JAビル	理事総数 22名 定足数 12名 理事出席 13名 監事出席 2名	○審議事項 (1) 令和6年度事業報告(案)について (2) 令和6年度決算報告(案)について (3) 役員選任(案)について (4) 令和7年度第1次補正予算(案)について 全て原案どおり承認されました。 ○検討事項 京都版ミニ・ミュンヘンについて

		<p>実施に向けた検討を行いました。</p> <p>○報告事項</p> <p>(1) 合同入職式について</p> <p>(2) 指定管理者選定について</p> <p>(3) 松井市長への表敬訪問について</p> <p>(4) 学生保育アルバイト支援事業について</p>
<p>第74回 理事会</p> <p>令和7年5月29日</p> <p>京都テルサ</p>	<p>理事総数 22名</p> <p>定足数 12名</p> <p>理事出席 13名</p> <p>監事出席 2名</p>	<p>○審議事項</p> <p>(1) 会長・副会長・常務理事の選任について</p> <p>(2) 各専門委員会委員長の選任について</p> <p>全て原案どおり承認されました。</p>
<p>第75回 理事会</p> <p>令和7年9月19日</p> <p>キャンパスプラザ京都</p>	<p>理事総数 22名</p> <p>定足数 12名</p> <p>理事出席 15名</p> <p>監事出席 3名</p>	<p>○審議事項</p> <p>(1) 令和8年度京都市予算に対する要望書について</p> <p>(2) パート・有期雇用職員給与規程の一部改正について</p> <p>全て原案どおり承認されました。</p> <p>○検討事項</p> <p>京都版ミニ・ミュンヘンについて実施に向けた検討を行いました。</p> <p>○報告事項</p> <p>(1) 指定管理者の候補となる団体の選定結果について</p> <p>(2) 令和7年京都市人事委員会勧告について</p> <p>(3) 子ども将棋交流大会について</p>
<p>第76回 理事会</p> <p>令和7年12月18日</p> <p>キャンパスプラザ京都</p>	<p>理事総数 22名</p> <p>定足数 12名</p> <p>理事出席 17名</p> <p>監事出席 3名</p>	<p>○審議事項</p> <p>(1) 令和8年度京都版ミニ・ミュンヘンの開催について</p> <p>(2) 新規入会者の承認について</p> <p>いずれも原案どおり承認されました。</p>

		<p>○協議・報告事項</p> <p>(1) 第 20 回全国児童館・児童クラブ大会 KOBE について</p> <p>(2) KBS 京都 あったか京都での京都版ミニ・ミュンヘンの放映について</p> <p>(3) 市民対話会議について</p> <p>(4) 令和 7 年度研修交流会について</p> <p>(5) 第 13 回子ども将棋交流大会について</p> <p>(6) 不登校児童の居場所づくりについて</p>
<p>第 77 回 理事会</p> <p>令和 8 年 3 月 11 日</p> <p>キャンパスプラザ京都</p>	<p>理事総数 22 名</p> <p>定足数 12 名</p> <p>理事出席 17 名</p> <p>監事出席 1 名</p>	<p>○審議事項</p> <p>(1) 令和 7 年度第 2 次補正予算(案)について</p> <p>(2) 令和 8 年度事業計画(案)について</p> <p>(3) 令和 8 年度収支予算(案)について</p> <p>(4) 新規入会の承認について</p> <p>(5) 職員出張旅費規程の一部改正について</p> <p>(6) 職員給与規程の一部改正について</p> <p>(7) 第 7 号議案 パート・有期雇用職員給与規程の一部改正について</p> <p>全て原案どおり承認されました。</p> <p>○検討事項</p> <p>第 2 回京都版ミニ・ミュンヘンに関して</p> <p>○報告事項</p> <p>(1) 人事異動について</p> <p>(2) 令和 8 年度京都市児童館・学童クラブ関連予算について</p> <p>(3) 令和 7 年度連盟研修会・交流会について</p> <p>(4) 第 20 回全国児童館・児童クラブ大会 KOBE について</p>

		(5) 令和8年度合同入職式について (6) 第13回こども将棋大会について (7) 不登校に関する京都市及び京都市教育委員会との協議について
--	--	-------------------------------------------------------------------------------

3 コンプライアンス研修会開催

職員の倫理意識向上と法人の健全な運営を推進するため、直営児童館8館の施設長、職員と事務局職員を対象に、12月16日、京都JAビルにおいて、亀谷正樹氏（京都市教育委員会 総合育成支援課 参与）を講師に迎え、「個人情報取扱い」をテーマに研修を行いました。館長・児童厚生員・クラス主任・クラス担当・事務局職員・つどいのひろば職員ら37名が参加し、参加者同士のグループワークも含め、法人内の職員が共通の規範意識を持つきっかけとなりました。

4 合同入職式

新規採用職員が京都市内の児童館・学童保育所で職務に従事している意義と役割を知り、誇りを持って働いていける機会になるようにすること、また、職員相互が知り合える機会を設け、運営団体を越えた、「同期」として仲間意識や支え合いが生まれるような機会をつくることを目的に、新規採用職員を対象に合同入職式を実施しました。

<対象>

連盟会員施設の以下の新規採用正規職員

- ・令和7年4月1日付け採用者
- ・令和6年4月2日～令和7年3月31日までに採用された方

<内容> 日 時 4月30日（水）午前10時～ 会 場 都ホテル京都八条
参加人数 51名

9:30	受付開始
10:00	<第1部> ・開式 ・挨拶（公益社団法人京都市児童館学童連盟 稲川昌実会長） ・来賓祝辞（松井孝治京都市長ビデオメッセージ） ・京都市児童館学童連盟 事業紹介動画 ・記念撮影
10:30	<休憩>
10:45	<第2部> グループワーク
12:00	<第3部> 懇親会（昼食）
13:45	・閉式

式典では今回の合同入職式のために特別に撮影した松井京都市長のビデオメッセージを投影し「京都市は市民にとって子育てしやすい都市となるようにさまざまな取組をしている。児童館や学童保育所は、子育て支援の重要な役割を担っており、入職された職員の皆さんもその一員として活躍されることを願っています。」との御挨拶をいただきました。

グループワークでは、数名のグループに分かれて、各グループで「就職したきっかけ」「働いてみてわかったこと」「児童館・学童保育所でこんなことやってみたい、こんな職員目指したい！」をトークテーマとして話し合いを進めました。また、「児童館・学童保育所でこんなことやってみたい、こんな職員目指したい！」の内容を各自で桜の花びら型の用紙に記入し、桜の幹の台紙に貼り付けて全員で大きな桜の木を作成しました。

懇親会ではバイキング形式による食事を楽しみながら、歓談する和やかな場となりました。懇親会中、「京都市〇区」や「京都府内」、「京都府以外の近畿地方」等の出身地別にテーブルをセッティングし、席替えを行いました。懇親会の終わりに、先輩職員からのメッセージ動画を視聴しました。令和7年度からは、研修委員会から連盟全体の取組として位置付け開催しました。